

取組みの事例

帷子川河口部の改修

帷子川河口部の狭窄部において、河道の拡幅を進めます。（現況の幅員約50mを約130mまで拡幅します）



川和遊水地の整備

鶴見川沿いの横浜市営地下鉄の車両基地の地下空間を利用して、遊水地を整備しました。



境川遊水地(今田遊水地)の整備

境川遊水地を構成する3つの遊水地(俣野、下飯田、今田)のうち、今田遊水地を整備します。（俣野、下飯田は整備済みです）



多自然川づくり

河川は、身近な自然とふれあえる貴重な公共空間であり、人々に安らぎや潤いを与える場所です。こうした河川の環境を整備・保全するとともに、自然とのふれあいの場としてだけでなく、環境学習の場や人々の交流の場としても利用できるよう、治水対策とともに、地元市町村や地域の方々と連携を図り、自然環境や社会環境、景観や水質、親水などに配慮した、人と自然にやさしい川づくりを進めます。

「かながわの多自然川づくり」の考え方

- ① 自然を保全・再生する
- ② 自然の営力がつくる川の形状を活かす
- ③ 人とのかかわりを大切にする
- ④ まちづくりとの連携を図る
- ⑤ 良好な水質および水深の確保に留意する

神奈川県

県土整備局河川下水道部河川課

横浜市中区日本大通 1 〒231-8588 電話(045)210-6494 (直通)

都市河川重点整備計画

〈新セイフティリバー〉

平成22年3月策定
平成22年4月改定

計画の必要性

県では、「都市河川重点整備計画(かながわセーフティリバー50)」を平成3年度に策定(平成9年度改定)し、過去の大雨で水害が発生した河川や、都市化の進展が著しい地域を流れる河川について重点的に整備を進めてきました。

この計画に基づき、平成8年度までに引地川の大庭遊水地や帷子川分水路が完成し、平成9年度の改定以降では、鶴見川では恩廻公園調節池や川和遊水地の完成により、概ね時間雨量60mmの降雨に対応した整備が完了し、柏尾川では、時間雨量50mmの降雨に対応した整備が完了しました。

しかし、県の都市化の状況や、近年、局所的、突発的に短時間で多量の雨が降る、いわゆるゲリラ豪雨が頻発していること、さらに、今後予測される地球温暖化の影響を考えると、引き続き、河道や洪水調節施設等の整備を進める必要があります。

そこで、平成22年3月に都市河川重点整備計画(かながわセーフティリバー50)を改定し、「都市河川重点整備計画(新セーフティリバー)」を策定しました。

都市河川重点整備計画(新セーフティリバー)に基づく河道整備率は、概ね6割となっています。

【近年における県内の主な浸水被害】

年月日 (洪水要因)	最大1時間雨量 (最大60分雨量)	浸水被害 計(棟)	主な水系
H14.7.14~16 (梅雨前線豪雨 及び台風7号)	38.0mm (時間雨量)	243	多摩川、鶴見川
H14.9.30~10.2 (台風21号及び豪雨)	77mm (時間雨量)	386	山王川、金目川、 森戸川(小田原市)
H15.3.1 (その他異常気象)	52.5mm (60分雨量)	393	境川
H15.5.27~6.1 (台風4号)	75.0mm (60分雨量)	314	引地川
H16.10.8~12 (台風22号及び豪雨)	62mm (60分雨量)	2,730	多摩川、鶴見川、 帷子川、境川、相模川
H16.10.18~22 (台風23号)	49mm (60分雨量)	127	鶴見川、帷子川、 境川
H17.9.3~8 (豪雨及び台風14号)	59mm (60分雨量)	175	境川
H19.9.5~8 (台風9号)	76mm (60分雨量)	106	酒匂川、早川
H20.8.28~30 (平成20年8月末豪雨)	91mm (時間雨量)	167	境川

※浸水棟数 100棟以上を対象
国土交通省「水害統計」及び気象庁、県雨量データ等より作成

【浸水・被災状況の事例】



平成16年台風22号による横浜駅西口付近
における浸水状況(帷子川)



平成20年8月末豪雨による境川の風戸橋上流付近
における堤防の被災状況(境川)

計画の内容

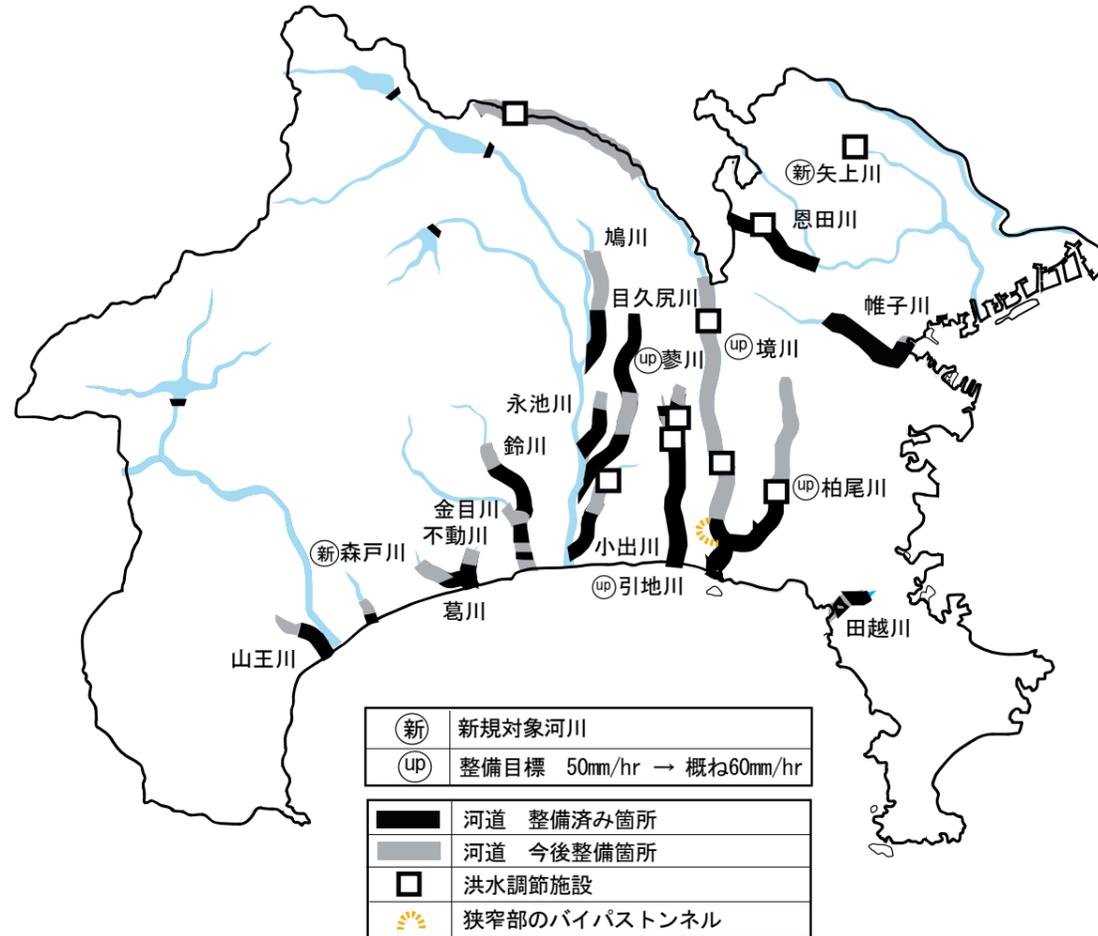
都市河川重点整備計画(新セーフティリバー)では、中小河川のうち、特に過去の大雨で水害が発生した河川や都市化の進展が著しい地域を流れる18河川について重点的に整備を進め、概ね30年間で、18河川のうち9河川については、概ね時間雨量60mmの降雨に対応した整備を完了し、その他の9河川については、概ね時間雨量50mmの降雨に対応した整備を完了します。

この計画では、金目川など4河川(境川、金目川、鈴川、山王川)については重点整備区間を延伸して整備を進め、柏尾川など4河川(境川、柏尾川、引地川、蓼川)については整備目標降雨を一段高め、概ね時間雨量60mmの降雨に対応できるように整備を進めます。

また、矢上川と森戸川(小田原市)の2河川を新たに対象河川として追加します。

河川整備の基本となるのは、川幅の拡大や河床の掘削などの河道整備ですが、都市河川では川幅を広げることが困難な場合が多く、その場合には、河道で流しきれない流水をいったん貯留することで下流の洪水を軽減する洪水調節施設等の整備を行います。

【都市河川重点整備計画(新セーフティリバー)対象河川等】



※洪水調節施設の位置は事業実施段階で決定します。

※護岸整備済み箇所においても、河床を掘り下げのための工事や維持管理のための工事を実施する箇所があります。

【都市河川重点整備計画(新セーフティリバー)の計画概要】

河川名	整備目標降雨	整備概要(概ね30年間)
① 新 矢上川	概ね60mm/hr	洪水調節施設 1箇所
恩田川	概ね60mm/hr	洪水調節施設 1箇所
帷子川	概ね82mm/hr	河道整備 約0.1km
田越川	50mm/hr	河道整備 約1.0km
境川	概ね60mm/hr	洪水調節施設 3箇所 【区間延伸】約4.3km 狭窄部のバイパストンネル 河道整備 約31.7km
柏尾川	概ね60mm/hr	洪水調節施設 数箇所 【整備目標UP】50 ³ →概ね60 ³ 河道整備 約3.8km
引地川	概ね60mm/hr	洪水調節施設 2箇所 【整備目標UP】50 ³ →概ね60 ³ 河道整備 約3.0km
蓼川	概ね60mm/hr	河道整備 約3.5km 【整備目標UP】50 ³ →概ね60 ³
小出川	50mm/hr	洪水調節施設 1箇所 河道整備 約2.9km
目久尻川	50mm/hr	河道整備 約0.3km
永池川	50mm/hr	河道整備 約1.6km
鳩川	概ね60mm/hr	河道整備 約4.4km
金目川	50mm/hr	河道整備 約2.6km 【区間延伸】約2.0km
鈴川	50mm/hr	河道整備 約3.1km 【区間延伸】約3.1km
葛川	50mm/hr	河道整備 約2.0km
不動川	50mm/hr	河道整備 約0.2km
① 新 森戸川	概ね65mm/hr	河道整備 約1.1km
山王川	概ね43mm/hr	河道整備 約1.7km 【区間延伸】約1.5km
18河川		河道整備 16河川 約63.0km 洪水調節施設 6河川 狭窄部のバイパストンネル
【区間延伸】	4河川	
【整備目標UP】	4河川	
【新規対象河川】	2河川	

概ね10年間で実施する主な整備内容

- ・ 矢上川…洪水調節施設の工事に着手します。
 - ・ 帷子川…河口部の改修を進めます。
 - ・ 境川…境川遊水地等を整備します。
 - ・ 柏尾川…洪水調節施設の整備に着手します。
 - ・ 引地川…下土棚遊水地を整備します。
- また、目久尻川と不動川は、重点整備区間で時間雨量50mmの降雨に対応した河道整備を完了します。その他の河川についても、河道整備を進めます。